

## 議会運営委員会 行政視察報告書

### 議会 I C T 推進事業について

#### 【視察までの経緯】

議会運営委員会は、昨年10月に行った鎌倉市議会と町田市議会の先進的な事例を学ぶ行政視察を踏まえ、議会改革の課題である議会 I C T を推進するため、議会運営委員会内部に専門部会を立ち上げることによって調査研究を進める事とし、①資料の電子化の試行（P D F によるペーパーレス化）②インターネットの試験放送（You Tube 等の研究）③マイクシステム等の調査研究の3点を重点項目と考え、少なくとも任期期間に一定の成果を目指すものとしたと目標を設定した。

その結果、本年度において9月にインターネットの試験放送の実施、常任委員会等の議事録公開に向けたマイクシステムの導入など、課題解決に向けた事業の実施に結びついている。このことから、残された課題である資料の電子化の試行に向け、本年度タブレット導入に至った稚内市議会に行政視察を行った。

#### 【導入までの経緯】

稚内市議会のタブレット導入の議論は平成25年度の議会運営委員会行政視察にて、神奈川県逗子市を視察した事を契機に、タブレット導入に向けた検討が始まった。その後、26年度は埼玉県飯能市、27年度は滋賀県大津市を視察し、導入に向けた検討を続け、平成28年4月に導入に向けた始動を議会運営委員会にて決定し、平成29年9月に導入を決定。その後試行を踏まえ、平成30年6月の定例会から完全運用に至った。導入の始動から運用まで約2年間であった。



### 【導入による効果】

今回タブレットを導入したことにより、見えてくる利点として、①議員が時間及び場所を問わず、議案等の各種資料を閲覧できる環境が整う②議員が日常タブレットを携帯し、市民との対話において、時間をかけずに適切な資料を用いて説明する事が可能となり、議員のライフワークの向上が図られる③議案等の資料が全てデータでの使用とすることで、結果的に市内のペーパーレス化に繋がる効果が出てきているという。

### 【今後の課題】

- ・タブレット操作に慣れている議員は問題ないが、一度も操作したことがない議員は導入に関して慎重になると考えられる。そのため、基本操作等の講習会の開催が必要になる。
- ・導入に係る初期経費及び維持管理経費や自己負担額の設定
- ・行政側との導入に向けた協議の実施
- ・グループウェアの活用やW I - F I の整備について
- ・機器の購入方法や更新方法について

### 【まとめ】

タブレット導入によって議会ICTをさらに推進するためには、留萌市議会全体の合意形成が不可欠である。そのためには、議会運営委員会内部に設置した専門部会において、合意形成に向けた判断材料をしっかりと調査研究する必要がある。稚内市議会は、平成27年の改選期後も継続協議を申し送りしている経緯から、この案件に対して議会運営委員会は継続協議の判断をする必要がある。

